

「大麻が吸収」「キノコが濃縮」「ホメオパシーで浄化」「庭の汚染土は東電へ」

# 放射能除染

環境省の試算によれば除染が必要な土壌は東京ドーム約23杯分と、汚染された国土の再生は容易ではない。それに伴い、除染をめぐる動きが活発化している。「ひまわりの除染効果なし」に戸惑い、次の一手を模索する現場から非科学的な方法まで。放射能除染の最前線を追った！

# 狂をめぐる 都市伝説

# 徹底 ホム

## 枯れるひまわり……除染効果に 翻弄される放射能汚染現場の今

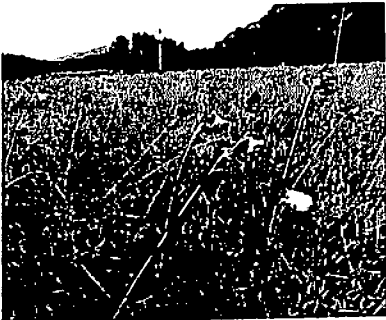
### 「種

「刈り入れ時期にまた会いましょう」と言

つて別れたボランティアの人たちと連絡が取れないんです」

福島県内でひまわりの種を植えるプロジェクトを運営していたNPO関係者は、眉を落とす。

汚染された土壌の放射性セシウムを吸収する植物として、注目を浴びたひまわり。だが、9月15日に農水省は「ひまわりによる除染効果は低い」という調査結果を発表した。そのため、被災地に植え



枯れて頭を垂れるひまわり。福島県内には除染効果で植えられたひまわり畑が散見される

られたひまわり畑の中には刈り取られることなく、希望の花から雑草になってしまったものも多

い。

除染騒動につけ込んだ怪しいビジネスも横行

とはいえ、農水省の発表に反論する声もある。植物の除染効果を研究している民間稲作研究所の稲葉光國氏は、こう話す。

「独自にひまわりの収穫時期や場所を変えて調査したところ、農水省が発表した吸収率の10倍の数値が出ました。ほかにも、葉の花や大豆などセシウムを吸収する可能性を持った植物はまだあります。一つの結果にこだわらず、さまざま



ひまわりを片手に脱原発を訴える人々。彼らも「除染効果なし」にはがっかり?

まな実験結果を鑑みて判断していくべきでしょう」

除染は急務の課題だが、成功例がないために現場は混乱。なかには、この騒動につけ込んだ怪しい除染ビジネスも横行している。

「何でも除染します」を売り文句に活動する団体が、ただのビルメンテナンス業者で、科学的根拠のない薬品を売りつけるなんてケースも増加。また、ひまわりを植えているNPO法人の中には除染ではなく、助成金が狙いだったたりするケースも。ひまわりの油から作られるバイオ燃料事業を奨励する自治体から助成金を得ようとしています(前出のNPO関係者)

未曾有の放射能汚染ゆえに、玉石混交。効果ありと謳われる除染方法は、後を絶たない。

庭の汚染土を東電に持ち込んだ男の言い分!

福島第一原発から約130km離れたX市に住む金田ゲンさん(仮名・39歳)は、購入した観音計で庭の土を計測。0.5マイクログリ

べルトという数値に驚き、庭の汚染土を土壌に詰め、引き取ってもらおうと東電に向かった。以下、東電職員とのやり取りである。

「庭を掃除して出た放射能だから、引き取ってください。東電さんの事業で出たゴミですよ」

東「園が汚染土の処分方法を検討中ですので、決定するまで当社は何もできません。お困りのご家庭

プッシャーも困惑

# 大麻

## ジャンキーの戯れ言と片付けられない除染効果で合法化!

除染効果のある植物として、注目されているのが大麻だ。発端は日本の原発事故を受け、3月13日に放



大麻で除染ができれば、まさにラブ&ピースノ

送されたアメリカの大麻合法化団体のラジオ番組。ホスト役の男性がこう発言した。  
 '86年のチェルノブイリの事故後、ウクライナとアメリカの企業が土壌から放射性物質を取り除く大規模なプロジェクトとして、産業用大麻を栽培したのである。'  
 産業用大麻とは、多幸感をもたらす化学物質THC(テトラヒドロカンナビノール)の含有量が少なく、繊維などの産業に利用できる大麻のこと。日本でも免許制で栽培が認可されている。

この発言は日本語に翻訳され、ネットに公開すると瞬く間に広がった。ツイッターでは、  
 (除染と心のケアをしてくれる大麻は神の草だ。合法化すべし)  
 (大麻は除染だけでなく放射性物質を分解してくれる)  
 などと尾ヒレがついて拡散。そして、5月に開催されたデモにまで飛び火し、福島にひまわりよりも大麻を植えろ」というシュプレヒコールが巻き起こったのだ。

大麻の個人使用容認を求める市民団体で、デモを主催した「カンナビスト」の共同代表者・麻生結氏が言う。  
 「そういう意見の人もいます。大麻による除染の有効性については、まだ科学的な根拠の有無がはっきりしていません。それより、一番の問題点は厳しすぎる大麻取締法

### 収穫祭を迎えられない放射能汚染された大麻畑!

大麻に除染効果があるとの一報に、困惑するのが国内で大麻をこっそり栽培している「生産者」たちだ。北関東を中心に大麻など違法ドラッグを売りさばっているプッシャーのAも動揺を隠せない。

「最近、大麻の除染効果を聞いた客から国内のアウト(下ア)ものはイヤだと言う注文が増えて困ってるんです。せっかくこれから収穫期を迎え、例年なら稼ぎ時なのに植戻れしちゃうよ。自分が契約しているクロワー(大麻生産者)の畑は茨城県にあるんですが、買い叩かれるのは必ず、野菜みたいに放射能汚染の検査

をするわけにもいかないし……」  
 大麻除染が話題になるや、常連客からは「インドアで栽培されたものがほしい」など例年になりにくくエラストが増加。そのため、現在は四国産を入手すべく奔走しているという。  
 「常連の大麻好きって、有機野菜しか食べないとか健康志向の人が多いから、敏感なんですよ。あるかどうかもわからない大麻の除染効果を断って、デモで大麻合法化を叫ぶのはやめてほしい。だって、除染効果があるのは産業用大麻でTHCが含まれてないんだから、いくら吸っても意味がない。これ以上、騒いで風



今年ハイブリッド種だから絶対にワマ



今年5月に行われた大麻の個人使用の容認を訴えるデモ。上にも「大麻による除染」を主張する声もあ



東電の駐車場に土嚢を置くと、警備員と職員に取り囲まれたという

のため、大麻除染の実験ができないことだと思えます」  
 デモで主張されたジャンキーの戯れ言……もとい大麻除染が、実際にプロジェクトになり得る可能性がゼロではないというから驚く。バイオマス資源のエネルギー利用を目指すNPO法人「バイオマス産業社会ネットワーク」理事の赤星栄志氏が言う。  
 「ほかの植物よりも産業用大麻の優れている点は放射能を吸収した後、繊維や燃料として二次利用できること。種子が吸収したセシウムは繊維などに移行しないそうです。こうした除染に関する科学的なデータをウクライナから取り寄せ、実験ができるように福島県知事に働きかけているところで、合法化を期待した人、あくまで産業用大麻であることを忘れずに

にアドバイスしているのですが、庭の隅に深い穴を掘って……」  
 ゲ「そんなのイヤです、自分で出したゴミ、というより毒でしょ。そんなの家に置いておけないよ」  
 東「検査計をお借りしてもいいですか。(ゲンさんから検査計を借りて計測。0.9を示した一つの土嚢を指す)これなら数値も高いし引き取っても……」  
 ゲ「政府が検附中の除染標準1マイクロシベルト以上(9月中旬時点)って、そういうこと?」  
 東「とにかく当社へのゴミの持ち込みはご容赦ください」  
 ゲ「じゃあ、あなたの家に穴掘って埋めてくださいよ」  
 東「……個人としても引き取れません。(理解できません)」  
 ゲ「理解できません!」  
 押し問答の末、土嚢を置いて強引に立ち去ったというゲンさん。持ち込んだ土嚢の行方は不明なまま。ただし、こうした行為は東電への業務妨害になりかねない。くれぐれもマネはしないように。



現在、放射能汚染の作業中、防護服を着た作業員が土嚢を運んでいる様子

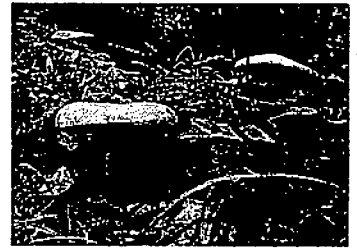
# キノコ

## 検出された高濃度の放射線物質が、除染効果を立証!?

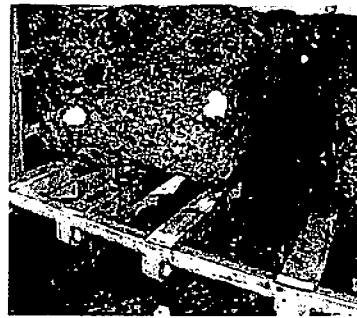
# 福

島根の一部地域で出荷停止や摂取制限が指示されている野生キノコ。一方、高濃度の放射線物質が検出され、キノコの除染効果に注目が集まっている。

11万6000ベクレル/kgが検出されたデータもある。ホトトスボツトになりやすい森林の吹き溜まりや凹地を好む腐生性のキノコではなく、今回検出されたチチタケなどは樹木の根と共生する菌根性。こうしたキノコに著しい蓄積が見られる点から、菌類には特異的に放射線物質を吸収、濃縮する能力がある



福島県湯浅町のチチタケから基準値の56倍となる2万8000ベクレルもの放射線物質が検出。そのため、野生キノコの出荷停止が指示された



キノコ類の栽培キットも販売されているが、生育は非常に限定された環境下でなければ不可能。「お庭の除染」に使うことは難しい

「事故後から(種菌を植えた)原木の売り上げが伸びました。また『屋内や庭の芝生、砂地で育てられる種類はないか』『チチタケはないか』という問い合わせが増えましたね。ほかに『木造の床下に植えて育つ種類はないか』なんて人もいて、土台が腐りますって教えておきました(販売業者) 確かに除染効果はあるかもしれないが、キノコにはひとつ問題が『菌類は、季節や生育環境が非常に限定される。菌類による除染は汚染土壌を集めて行うのが原則。自宅の庭で栽培というのはナンセンスです(那野氏) 除染効果を発揮する前に、栽培が困難ということか。

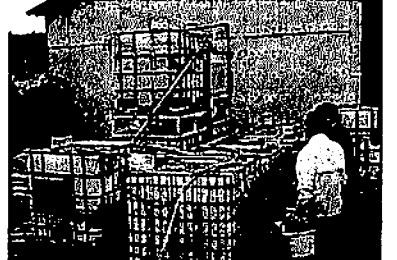
# 微生物

## 微生物がセシウムを無害な別の物質に変化させて除染する

# バ

クテリアが放射線量を大幅に低下させ、無害のバリウムに変化」。こうして「微生物による除染効果」も報じられ、各地で微生物の除染研究が行われている。だが、懐疑派も多く「放射性物質が原子変換されるなんてあり得ない」など大論争が巻き起こり、微生物除染にはトンデモ説の向きが強い。

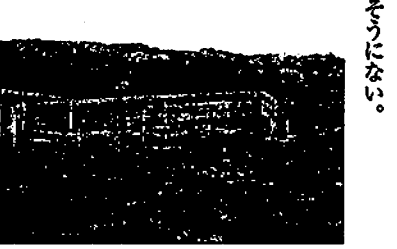
前出・那野氏は「微生物をトンデモとするのは、そもそもの論点がズレている」という。「例えば、放射性セシウムを吸収



微生物には無機物やエネルギー一般を活用するものがあるのは事実。小規模施設で研究ができるバイオ関係は、実験実験もしやすい

して別の物質を排出する微生物がいても、それはセシウムを分解したという意味ではない。実際、ロドコッカス・エリスロポリスという細菌はカリウムと間違えてセシウムを吸収。微生物には、無視できない可能性が秘められている。そのため、除染に有効な微生物の発見に多くの研究機関やベンチャーが参入。この巨大なビジネスチャンスを生かそうと、実証実験もそこそこ商品化を進める業者も存在し、キナ臭い動きもある。

そこで、複合的な微生物解媒で「放射性物質を安定物質に転換する」実証実験を行い、ネット上で話題になっている高橋開発工学総合研究所に問い合わせしてみた。「われわれの研究は無機物、エネルギーを培地・媒体とする化学合成細菌類・光合成細菌類の現生と発現の科学です。マスコミが取り上げる低レベルなひまわり、EM菌、ゼオライト(多孔質)などと



同研究所の実証実験には「土をこっそり入れ替えた」との批判も。だが、「より巨大な用地での実証実験に入り、被災地のために急ぐ」とか

### 政府は早急に除染のガイドラインを示し、混乱に終止符を!

除染は緊急課題ですが、そう簡単にはできるものではありません。米国防務省が昨年発表した「核兵器工場跡地で、高レベル核廃液が広大な土地と地下水を汚染したケースがありました。米国防務省は土壌除染に毎年約10億ドルを投入し、13年間研究してきたが、除染に成功したのは全体のたった0.3%。それほど放射線物質の除染は、難しいんです。しかも、日本の汚染範囲はあまりにも広すぎる。東日本各地で100〜10万ベクレルのセシウムが検出されていますが、これはほとんどない数値。チエルノブイリ事故発生時、ホットスポットと言われたスウェーデンの一部さえ、70ベクレルでした。ただし、スウェーデンはその土壌を除去するために、事故後すぐに政府が率先してカルシウムなどを土壌に混ぜるよう指示。除染に一定の成果を上げています。



広告は人と人をつないでいく。

**JAAA**

Japan Advertising Agencies Association  
社団法人日本広告業協会

# まだある！

## ホメオパシー 「福島の土から作られた水を福島の川に投入中」



隣国団体からは福島の水を使って作った砂糖玉(1.5g=580円~/食用)も発売中

病気の原因物質を、分子が一つも残らないほど希釈して作られた「レメディ」なるもので病気が治ると主張する「ホメオパシー」。昨年、日本学術協会などから「科学的根拠はなし」と全否定されたばかりだ。

# 真偽不明な放射能除染方法

ところが現在、日本ホメオパシー医学協会は、放射能汚染された河川の浄化に有効であるかのようなキャンペーンを展開。代表の由井寅子氏は福島県を巡り、県内で採取した土を希釈したレメディをペットボトルに入れ、河川に投入するパフォーマンスも見せている。だが、その程度の量で川に溜まった放射能物質が除去され、浄化できると思えないのだが……。

## 創生水

### 仕組みはわからないが、放射性物質が消えちゃった!?

もともと、「高い波動があり、身体のエネギーを高める」などとして販売されてきた創生水。科学的根拠がないとされる「波動水」



EM菌は14=2100円。機関誌などで被災地支援活動(EM菌の配布)もアピール

「創生水」が現在、販売元の「創世ワールド」社が福島県内で土壌の浄化実験中だ。「県内の土に創生水を入れたところ、セシウムが半減した。土に浸した後の創生水のセシウムもゼロ。つまり、放射能が消えてなくなつたのです。仕組みは私たちにわかりませんが(同社担当者)放射能物質はる過や洗浄で除去できても、消し去ることは不可能とされているのだが……。

## EM菌

### 水質汚濁の原因!? 細菌液が福島の汚染を悪化させる!

琉球大学名誉教授・比嘉照夫氏が提唱する「EM菌」。土壌の放射性物質浄化に有効なとして、推進団体が東北各県の農場での実験や避難所への配布を行っている。もともとEM菌は、推進団体が水質改善のためとして全国の河川や海に投げ込む活動をしてきた。しかし07年、福島県環境センターが、むしろ水質汚濁の原因になるとして公式に警告を発している。「それがまた福島県内ではばまかれようとしている。これって、どうなんだろうね(県関係者)これ以上の汚染は、福島県民も避けたいところだ。

鎌仲ひとみ氏

ドキュメンタリー映画監督。国内外の多くの場を、原発と取材。現在、「ミツバチの羽音と地球の回転」を各地で上映中

国や政府がガイドラインを明確に示さなければ、国民が右往左往するのは当たり前。先行事例や研究成果を謙虚に学ばなくては、葉の花でも何もやらないよりはまし。私も、チエルノフィリのカロシチで葉の花の威プロジェクトを支援して来ました。除染に時間ばかりかかっていますが、バイオエネルギー生産地としての土地再生の可能性もある。決して無駄ではないと思っております。

前例のない原発事故が起きてしまつた以上、今こそ日本中の研究者の協力を結集し、政府は早急に除染の指針を示すべき。そして、市民はいかに放射能物質から身を守るかを学び、原子力プロパガンダのウソを見破らなければいけません。